

概要

1711年に初演された《リナルド》は、ヘンデルがロンドンで発表した最初のイタリア・オペラで、大成功を取め、初演の前日に26歳の誕生日を迎えた若きヘンデルの名声を確立した傑作である。ロンドンの劇場で上演された、初の本格的なイタリア・オペラでもある。

原作は、ルネッサンス・イタリア文学を代表するトルクアート・タツソの『解放されたエルサレム』(1581)。イスラム教徒の占領下にあった聖地エルサレムを奪回してヨーロッパを熱狂させた「第一次十字軍」(1096-1099)に基づいた、幻想的な一大叙事詩だ。『解放されたエルサレム』は大ベストセラーになり、絵画からオペラまで多くの芸術作品の題材になったが、魔女アルミーダが十字軍の勇士リナルドを誘惑するエピソードは特に人気があった。

この題材を提案したのは、ヘンデルに作曲を依頼した女王劇場の支配人アーロン・ヒルである。ヒルは台本の原案も自分で書き、イタリア語台本の作成をジャコモ・ロッシに頼んだ。ヒルはタツソの原作をかなり自由に書き換え、リナルドの恋人アルミレーナを創造したり(有名なアリア「涙の流れるままに」は、アルミレーナがアルガンテに迫られて歌うアリアである)、結末にアルガンテとアルミーダの改宗シーンを加えるなどして物語を盛り上げている。ヘンデルはわずか二週間で作曲を終えたが、それはこれまで書きためた音楽をかなりの部分に転用したためでもあった。

《リナルド》は、「魔法オペラ」に分類されるエンタテインメントだが、同時に「時事もの」でもある。当時のイタリア・オペラは、はるか昔の物語を扱いながら作曲当時の情勢を暗示することがよくあった。ヘンデルは当時ドイツのハノーヴァーの宮廷楽長だったが、彼の雇い主であるハノーヴァー選帝侯ゲオルク1世は、母方の血筋によりイギリスの王位継承権を持っており、アン女王(在位1707-1714)の次のイギリス国王に即位することが確実視されていた。ヘンデルはゲオルクI世の意を受けて、現地の状況を偵察するためにロンドンに乗り込んだ可能性が高い。一説によると《リナルド》の主人公は、混乱しているイギリスの救世主となるだろう「ジョージ(「ゲオルク」の英語読み)I世」の暗喩だという。そのことを頭の隅に置いて鑑賞するのも、なかなか乙なのではないだろうか。

あらすじ

第1幕

1099年。総司令官のゴツフレードに率いられた第一次十字軍が、エルサレムの街を包圍している。十字軍の戦士リナルドは、ゴツフレードの娘アルミレーナと愛し合っていた。ゴツフレードは、エルサレムが陥落したら二人の結婚を許すと約束する。

エルサレムの王アルガンテの申し出で、3日間の休戦が取られることになった。アルガンテの恋人で魔女のアルミーダは、勇敢なりナルドがいなくなれば勝てると考え、まずアルミレーナを誘拐する。リナルドは、ゴツフレードとその弟のエウスタツィオと連れ立って、アルミレーナを救う方法を教えてくれるという魔法使いのところへ旅立つのだった。

第2幕

リナルドは、魔法使いのところへ向かう途中に通りがかった海岸で、彼を狙っていたアルミーダの魔法にかかり、連れ去られてしまう。

アルミレーナは、アルミーダの魔法の庭に囚われていた。彼女の美しさに魅せられたアルガンテはアルミレーナに迫り、アルミレーナは我が身を曝く。一方アルミーダは凛々しいリナルドに夢中になり、アルミレーナに姿を変えてリナルドを誘惑する。アルガンテは変身しているアルミーダをアルミレーナだと思って口説き、アルミーダを怒らせてしまう。

第3幕

リナルドを失ったゴツフレードとエウスタツィオは、岩山の麓にある魔法使いの洞窟にたどり着く。魔法使いは二人に岩山を登るよう命じるが、魔物たちが邪魔をする。魔法使いは二人に魔法の杖を与え、魔物を退治させる。岩山の頂上には、アルミーダの魔法の庭があった。二人はアルミレーナとリナルドを助け出し、魔法の杖を振って魔法の庭を消してしまう。ゴツフレードはリナルドとエウスタツィオに、エルサレムの総攻撃を命じる。

エルサレムは陥落した。リナルドとアルミレーナは喜びのうちに結ばれ、捕らえられたアルガンテとアルミーダはキリスト教に改宗する。

ヘンデルについて

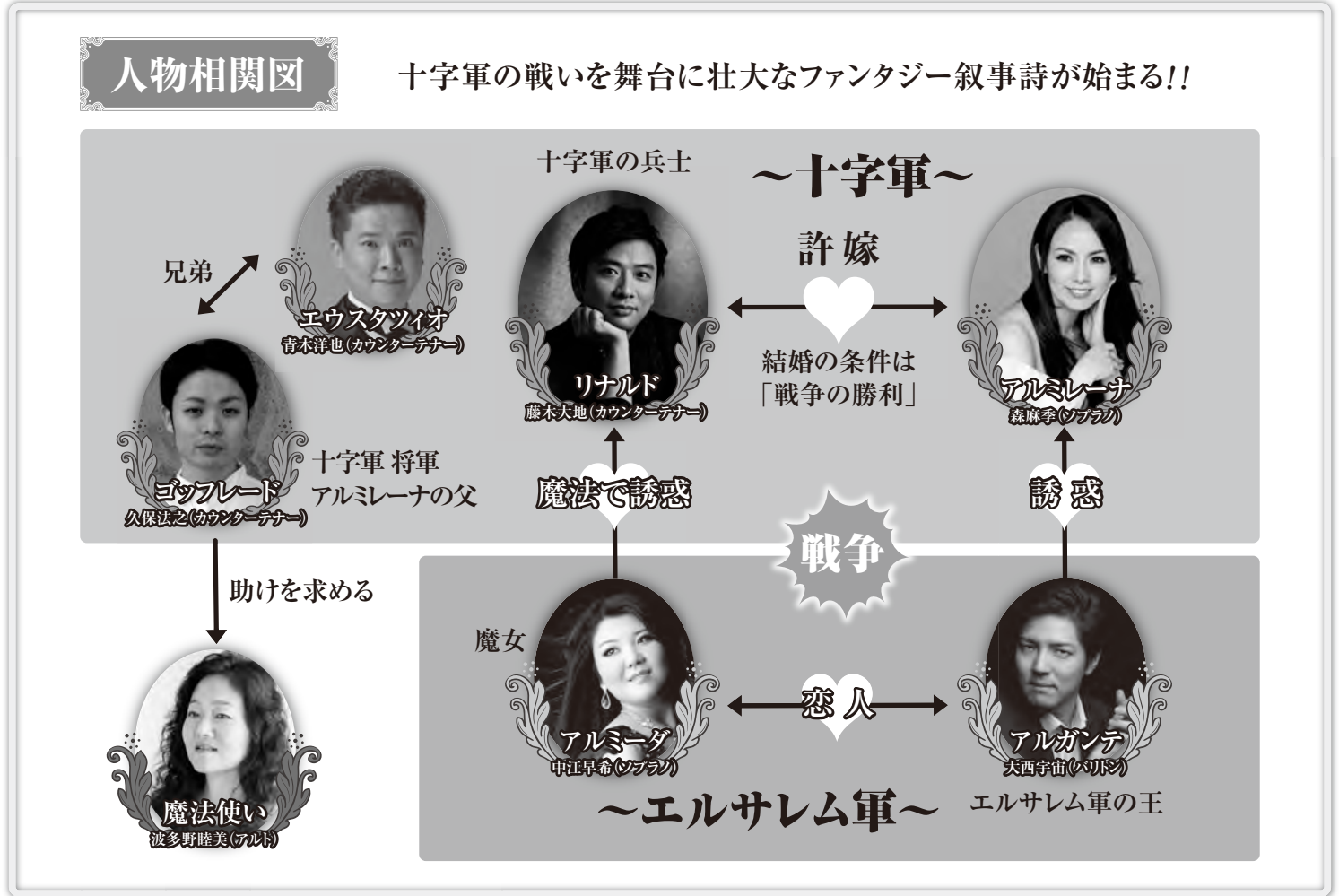
ゲオルク・フリードリヒ・ヘンデル(1685-1759)は、バロック時代後期を代表する作曲家。あらゆるジャンルに作品を残したが、とりわけオペラ、オラトリオの分野で、甘く官能的かつ劇的華麗な音楽を駆使して人間味溢れる音楽ドラマを描いた。劇場プロデューサーや外交官としても活躍した、18世紀前半を代表する有名人、マルチタレントでもある。

生まれはドイツのハレ。ちなみにあのヨハン・セバスティアン・バッハ(1685-1750)は同じ歳で、生まれ故郷もそう遠くないが、二人の人生は対照的だ。バッハが教会音楽を生業とする音楽職人の子で、生涯その仕事を守ったのに対し、宮廷外科医の息子だったヘンデルは自由人で、国境を超えて活動した。バッハは20人の子供を遺した家庭人だったが、ヘンデルは結婚すらしなかった。

最初の音楽修業はハンブルクの歌劇場。19歳でイタリアに渡り、各地を回る。1709年、オペラ《アグリッピーナ》がヴェネツィアで大成功。ハノーヴァーの宮廷楽長に招かれるが、おそらく次期イギリス国王に内定していたハノーヴァーの選帝侯からの依頼で、現地の様子を探る意図もあってロンドンに渡った。1711年、ロンドンにおける最初のオペラ《リナルド》が大成功を収める。オラトリオ《メサイア》、オーケストラ曲《水上の音楽》など名曲をあまた発表して音楽家としての名声を確立。王室関係者や貴族とも親しく交わった。

1727年にイギリスに帰化し、「ジョージ・フレデリック・ハンデル」となる(そのためいまだにドイツ人もイギリス人も、ヘンデル=ハンデルは自分の国の偉人だと主張する)。晩年は失明や脳疾患に苦しみ、74歳で没。イギリスの名士の霊廟であるウェストミンスター寺院に葬られた。死後も名声は衰えず、ベートーヴェンから崇拜され、19世紀の合唱運動でも大きな役割を果たした。オペラはこの半世紀余りで再発見が進んでいる。

(加藤浩子)



バッハ・コレギウム・ジャパン 今後の公演情報

ベートーヴェン:「運命」とハ長調ミサ曲

11月28日(土) 15:00 東京オペラシティ コンサートホール

11月29日(日) 15:00 彩の国さいたま芸術劇場

鈴木雅明(指揮) バッハ・コレギウム・ジャパン(合唱・管弦楽)

創立30周年記念演奏会 (第138回定期演奏会 / 5月 延期公演)

12月16日(水) 19:00 東京オペラシティ コンサートホール

J.S.バッハ: カンタータ第78番、《マニフィカト》BWV 243 他

鈴木優人(指揮) バッハ・コレギウム・ジャパン(合唱・管弦楽)

クリスマス・キャロル & オルガンコンサート

12月19日(土) 15:00 軽井沢大賀ホール

鈴木優人(指揮・オルガンソロ) バッハ・コレギウム・ジャパン(合唱)

ヘンデル: メサイア

12月24日(木) 18:30 サントリーホール

鈴木雅明(指揮) バッハ・コレギウム・ジャパン(合唱・管弦楽)

【お問合わせ】

バッハ・コレギウム・ジャパン・チケットセンター 03-5301-0950(12/19 除く)

軽井沢大賀ホールチケットサービス 0267-31-5555

鈴木優人プロデュース／BCJオペラシリーズ Vol. 2



ヘンデル 歌劇《リナルド》

セミ・ステージ形式

Georg Friedrich Händel: Rinaldo

2020年11月3日(火・祝) 16:00開演
東京オペラシティ コンサートホール

4:00p. m., Tuesday, November 3, 2020 at Tokyo Opera City Concert Hall

主催: JAPAN ARTS ジャパンアーツ

バッハ・コレギウム・ジャパン BACH COLLEGIUM JAPAN

共催: 公益財団法人東京オペラシティ文化財団

助成: 文芸春秋

文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術創造活動活性化事業) | 独立行政法人日本芸術文化振興会

